

講演セッション  
「3次元計測とデータ解析の最前線」  
概要説明

中澤 明寛

アジア航測株式会社  
事業戦略部 技術戦略室

2022年8月29日

# 空間情報のDXを取り巻く環境

<b>Politics</b> (政治)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2023年全事業で<b>BIM/CIM原則適用</b> 生産性2割向上</li><li>• <b>第4期地理空間情報活用推進基本計画</b>が策定</li><li>• <b>国土交通データプラットフォーム</b>は、3D都市モデル(PLATEAU)などの<b>基盤情報と民間データを連携し、デジタルツインの実現</b>を目指す</li><li>• デジタル庁は2025年までの「<b>空間ID</b>」<b>全国整備</b>を検討。<b>ベース・レジストリと紐づけ</b>も検討</li><li>• AI戦略2021では<b>国家強靱化</b>のための「<b>AI利活用の基礎となるデジタル・ツインの構築</b>」が具体的目標</li></ul> <p><b>デジタルツインの実現では官民・異業種のデータ連携が重要</b></p>
<b>Economy</b> (経済)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 世界の<b>無人機交通管理市場</b>は2020年900億円から<b>2028年4,000億円</b>と予測<sup>1</sup></li><li>• 世界の<b>GISの市場規模</b>は2021年101億ドルから<b>2027年211億ドル</b>と予測<sup>2</sup></li><li>• <b>2025年の壁 (DXレポート)</b>。DXが進まなければ最大で年間12兆円の<b>経済損失データプラットフォーム整備</b>により、<b>衛星画像や3次元点群等のデータはオープン&amp;フリー化</b>が進行</li><li>• iPhoneライダーなど<b>計測装置の低価格化</b></li></ul> <p><b>外部環境は著しく変化し、「機会」と「脅威」が混在</b></p>

# 空間情報のDXを取り巻く環境

Society (社会)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 政府は、デジタル田園都市国家構想基本方針を策定し、地方のDX化を推進。</li><li>• 政府が推進するデータ連携基盤の整備では品質確保が重要</li><li>• データ連携基盤は地域の官民データをあわせた活用のため地域と連携した体制整備が重要</li><li>• デジタル田園都市構想ではインフラ、防災、+観光が注目分野</li><li>• アフターデジタルの波：モノづくり企業の選択はマネタイズ上位のサービサーになるか、BtoCパートナー連携</li></ul> <p style="text-align: center;"><b>地域サービスにおける活用提案が空間情報DXのポイント</b></p>
Technology (技術)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 衛星画像やドローンの技術の進展。ドローン(VTOL型など)は航空測量との領域重複が進み、多様なプラットフォームで様々なデータ取得が可能</li><li>• データの大容量化、精度の異なる様々なデータが流通</li><li>• AI開発の競争は激化の様相。航空測量や3次元計測データを用いたAI開発は独自領域</li></ul> <p style="text-align: center;"><b>計測データの品質特性を熟知し、使いこなすノウハウが重要</b></p>

# スピーカー紹介

## 【3次元計測とデータ解析の最前線】

ドローンによる3次元計測が実際の業務で扱われ始めており、様々な価値を創出するための解析技術は進歩が目覚ましい。本セッションでは、ドローンによる3次元計測とデータ解析の最前線で活躍する2名の方に紹介していただく。

講演 1	<h3>道路事業におけるUAVレーザ測量の活用事例</h3> <p>大鋸 朋生 様 アジア航測株式会社 西日本空間情報部 副部長</p>
講演 2	<h3>株式会社リアルグローブの挑戦とIoTが社会にもたらす未来イメージ</h3> <p>大畑 貴弘 様 株式会社リアルグローブ 代表取締役社長</p>